

## 37 先人苦闘の譜・昔大堰小学校物語



大井小学校沿革誌

明治5年9月5日、学制が發布されます。全国を8つの大学区に、大学区の中を32の中学区に、更に1つの中学区を210の小学区に分け全国に53,760の小学校を設置するというものです。

しかしこれは、国としてあるべき数を示したもので、強制力はなく、受入側の地方でも、旧来の体制や財政的な問題もあって、施行に向けた動きが本格化するのは、明治6年に入ってからのこととなります。

さて、明治6年1月、我が小田県の小学校設置目標は951校とされ、翌7年6月までに約半数の464校が開校しました。形態は、寺院や民家を借用したものが多く、寺子屋や私塾を再編したものが多かった模様です。

大井初の小学校は、明治6年3月22日、大井村、日近村、吉村、杉谷村、高田村の5ヶ村による組合組織により、南校を大井村清泰院に、北校を日近村安養寺に置き産声をあげました。教科は読書、習字の二科目。教員は首席教員増田久人以下5名、就学生155名。校名を大堰小学校と称えました。



大井村清泰院

以下、大井小学校沿革誌で、昔時を辿ってみましょう。

- ・明治7年1月、5ヶ村分離、大井村独立し、引き続き清泰院に校舎を置く。首席教員二階堂左馬七ら2名。就学生88名なり。
- ・明治9年10月22日、栗井村啓己小学校（今、「学校屋敷」と伝わる。）と統合、大井小学校となる。就学生151名。
- ・明治12年12月6日、栗井村茅（萱）ヶ池からの通学山間僻地遠路なるをもって同地に通学所を設ける。
- ・明治14年8月23日、茅ヶ池通学所を廃止し、栗井村（啓己小学校）に分校を置く。
- ・明治18年9月23日、大井村170番地に移転（正しくは2170番地 伊丹家か？）
- ・明治19年7月4日、大井村会へ移転
- ・明治20年3月26日、栗井村の分校を廃し、統合して尋常大井小学校と改称す。
- ・明治22年、大井村と栗井村が合併
- ・明治23年10月30日、教育勅語下付
- ・明治25年11月、大井尋常小学校と改称す。
- ・明治33年4月、賀陽、下道二郡合併し吉備郡と称す。
- ・明治35年4月、教室狭隘のため村仮設場へ移転す。



日近村安養寺



栗井村啓己小学校跡(学校屋敷)

- ・明治40年4月、桁行三間半、梁行九間の校舎一棟増築
- ・明治42年4月、村治上より筒井坂部落児童は日近小学校へ転学、明治44年帰校（日本人口M5：33,110千人  
→ M40：50,253千人…人口急増 → 海外移民の増加）
- ・大正3年3月8日、本校落成式を挙げる。
- ・大正4年11月6日、大井村青年団が大札記念として校門を寄附。また、海外居住者の寄付金で皇室の恩沢を記念する大札記念特別基本金300円を設け三大節（四方拝・紀元節・天長節）に児童へ記念品を授けるものとする。
- ・大正6年10月27日、在郷軍人会発起建設の忠魂碑除幕式挙げる。
- ・大正12年9月26日、村内戦病死者の墓参
- ・昭和8年5月27日、明治36年渡米の粟井出身中田常太郎氏寄附による校旗制定式を挙げる。
- ・昭和10年4月1日、高等科併置（尋常6・高等2年）
- ・昭和11年2月11日、講堂落成（岡嶋勲・関武寄附）
- ・昭和15年11月10日、皇紀2600年奉祝式典
- ・昭和16年4月1日、国民学校令施行、大井国民学校と改称。  
発育不良児、栄養不良児の体位向上のため1人、米1日1合、金6銭を持参せしめ、昼食の学校給食開始
- ・昭和16年12月9日、対米英宣戦詔勅奉読式挙げる。
- ・昭和17年1月20日、モンペ服を女児の制服とし全員着用
- ・昭和17年3月20日、国民学校第1回修了式挙げる（初等31名・高等48名）
- ・昭和17年5月30日、坂井岩松氏寄附の相撲道場落成式挙げる。全児童相撲大会開催
- ・昭和18年5月27日、大井海洋少年団、大井航空少年隊結成式挙げる。この日を期し心身鍛練。全校皮膚摩擦開始
- ・昭和18年7月30日、この日から1週間、総社町湛井の井神社社務所を借り臨川訓練開始。初等科5年以上全員参加
- ・昭和18年9月5日、時局の要求に即応し大井神社山麓に炭焼窯をつくり全職員及び高等科男女これに当たる。
- ・昭和19年12月5日、戦局苛烈により浅口郡連島町の三菱重工業水島航空機製作所へ勤労働員下令。第一陣の高等科男女各2名、教頭赤木一男が引率し出動（20年6月22日早朝空襲）
- ・昭和20年8月15日、終戦の詔勅
- ・昭和23年4月1日、6・3制実施。大井小学校と改称
- ・高等科は廃止され、児童は新制中学校生徒として足守中学校へ入学
- ・平成23年4月、福谷、高田、大井小学校統合し蛍明小学校となる。

